

令和2年度 宇都宮市立河内中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
生徒の知・徳・体の調和のとれた成長を期し、豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きようとする生徒を育成する。
- (2) 具体目標
 - ① 実力を養う…たくましい体力と何事にもくじけぬ強い精神力(耐性)を養い、自ら学習しようとする意志力をもつ生徒を育てる。
 - ② 友愛を深める…礼を重んじ、友情を育て、深め、思いやりのある生徒を育てる。
 - ③ 品性を高める…人格向上を目指して自己を磨き、豊かな心をもつ生徒を育てる。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 「魅力ある学校」(感動ある学校、学び合う学校)
 - ① 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ② 感動的な学校行事の推進 ③ 言語活動と読書活動の推進
 - ④ 人権意識の涵養と規範意識の醸成 ⑤ 保護者との連携強化
- (2) 「地域とともにある学校」(カリキュラムマネジメント)
 - ① 地域教育力の活用 ② 地域行事への生徒の参加・協力の推進
 - ③ 「宇都宮の良さ」「河内地区の良さ」を発信し、考えさせる指導の充実 ④ 地域奉仕作業、地域美化活動等の展開
 - ⑤ 学校の教育活動の地域への情報発信
- (3) 「やりがいのある学校」
 - ① 協働する教職員組織の構築 ② 教職員の授業力の向上と生徒の学力の向上 ③ 教職員の服務規律の確保
 - ④ 教職員の業務（働き方）の見直し

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 確かな学力の育成
 - ① 授業研究の日常化・活性化 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - ② 考える力を育む言語活動の充実（学校課題） ③ 教科の枠を超えた授業参観と校内研修の充実
 - ④ 小中学校で連携した学習指導の推進
- (2) 豊かな心の育成
 - ① 「特別の教科 道徳」（考える道徳・議論する道徳）の充実
 - ② 読書に親しむ態度の育成 ・「地域学校園図書館利用指導」の充実
 - ③ あいさつ、返事、言葉遣いの指導 ・あいさつ運動（全校・小学校）の活性化
 - ④ 「いじめ防止基本方針（改訂版）」の着実な運用 ⑤ 感動体験を重視した学校行事の充実（運動会、合唱コンクール、マラソン大会等）
- (3) 健康・体力の向上
 - ① 健康的な生活を送るための指導の充実 ② 新体力テストの結果を活用した教科体育の充実
 - ③ 縦割りによる運動会の充実 ④ 安全に配慮したマラソン大会の実施 ⑤ 自他の安全を守る能力の育成（避難訓練、安全集会）
- (4) インクルーシブ教育及び個に応じた指導の充実
 - ① 障がいに対する理解・研修及び合理的配慮への取り組み
 - ② いじめや不登校の未然防止、早期対応、組織的な対応（Q-Uの活用、SC・MSとの連携、関係機関との連携、家庭との連携）
 - ③ かがやきルームの効果的活用と別室登校支援の充実
- (5) 学校における教職員の働き方改革の推進
 - ① 多様な専門スタッフと連携したチーム力の向上 ② 月1回以上のリフレッシュデーの設定
 - ③ 学校業務の効率化と勤務時間の管理 ④ 部活動指導体制の見直し
- (6) 地域とともにある学校づくりの推進（カリキュラムマネジメント）
 - ① 宮・未来キャリア教育の推進及び地域人材の活用（ふれあい文化教室、福祉教育、キャリア教育、健康教育）
 - ② 地域協議会との連携（地区体育祭、文化祭、小学校運動会への参加協力、書写指導、図書館ボランティア、食農体験、花壇整備、「未来塾（放課後学習支援活動）」への参加呼びかけ） ③ 「学校マネジメントシステム」の中間期評価の実施と活用
 - ④ 学校だよりやHP等を通しての情報発信

〔河内地域学校園教育ビジョン〕

『すこやか河内 ～小中一貫教育を通して、子どもたちの心身の健やかな成長を目指します～』

4 教育課程編成の方針

- (1) 関連する法令、栃木県教育振興基本計画、第2次宇都宮市学校教育推進計画に従い、本校教育目標が達成できるように全職員の理解と協力により編成する。
- (2) 地域や生徒の実態、学校の施設設備、職員組織を考慮し、必修教科、特別の教科・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）の調和を図って編成する。
- (3) 基礎的・基本的な内容の指導の徹底、個性を生かす教育の充実、自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成を図り、生涯教育の基礎を培うことを目標に編成する。
- (4) あらゆる教育活動の場面で、「学び合い・喜び合い・励まし合う」活動内容や場を設定し、生徒同士や教職員および地域の人々との交流を深めながら、3あい運動の深化・拡充を目指し編成する。
- (5) 学校の教育活動全体を通じて、体力の向上や健康の増進を図るため体育的活動を積極的に行い、健康で安全な生活を送るための基盤となるよう編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】
- ① 「魅力ある学校」づくり ② 感動的な学校行事の推進 ○③ 計画的な小中一貫教育の推進
④ 職員の働き方の見直し
- 【学 習 指 導】
- ① 学力調査等を活用した共通実践 ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
○③ 学校園授業コンセプトの定着・充実 ○④ 言語力の基礎の徹底
- 【児 童 生 徒 指 導】
- ① 「特別な教科 道徳」の充実 ② 体験活動・読書活動の充実
③ 正しい言動で自分を表現できる生徒の育成 ～元気なあいさつ、さわやかな言葉遣いと身だしなみ、素直に「ごめんなさい」～
- 【健康（体力・保健・食・安全）】
- ① 健康増進・体力向上の基本的な知識を身に付け、自分の身体の状態を理解し、体力向上に励む生徒の育成
○② 運動に親しむための体力づくり ○③ 望ましい食習慣の形成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
目 指 す	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 70%以上	○① 主体的、対話的に授業に取り組む生徒の育成を目指して、「考える力を育む言語活動の充実」を図る。 ② 方法や形態等の工夫を図り、言語活動の場面を効果的に取り入れた授業を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で、目標指標を 30 ポイント上回っている。また、生徒の肯定的評価が 93.8%と高い数値となっている。 【次年度の方針】 ○地域学校園の授業コンセプトの研究に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」が全ての教科で実践できるようにする。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 「特別な教科 道徳」の授業改善に取り組み、生徒の道徳性を高める。 ② 温かな人間関係を基盤とした学級経営を推進する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.5%で、目標指標を 13 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 生徒と学級担任の良好な人間関係を基盤とした学級経営や、「特別な教科 道徳」の充実を図る。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	① ルールを守る、いじめをしないなど、人として大切なことを全ての職員がしっかりと指導する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.2%で、目標数値を 8 ポイント上回っている。

生徒の姿勢	【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	② 学校行事等の体験活動の中で、ルールを守って活動することの大切さを実感させる。	【次年度の方針】 今年度に引き続き、基本的なルールやマナーの指導を、全教職員共通理解のもと取り組む。また、旅行的行事の際に必要なマナーの指導を丁寧に行う。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	○① 全教育活動を通じて、明るくさわやかなあいさつができるように、全教職員で指導を行う。 ○② 小中一貫教育、学校交流連携促進部会との関連を図りながら、小中学校、地域ぐるみのあいさつ運動を展開する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.3%で、目標指標を 18 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ○地域学校園あいさつ運動を継続して行う。また、生徒会企画のあいさつ運動の実施など、校内でのあいさつを活性化させる。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 75%以上	① 生徒が興味や関心をもって学習に取り組む課題設定についての授業研究を推進する。 ② 運動会や合唱コンクールに、学級や団で協力して取り組ませ、達成する喜びを感じさせる。	A 【達成状況】 生徒の肯定的評価は 84.4%で、目標指標を 9 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 学校行事や部活動の目標を明確にし、その達成に向けて具体的に組み立てるようにする。また、「宮・未来パスポート」の活用法について検討する。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	① 給食で「苦手の食べ物を食べる努力をする」指導を継続して行う。 ② 交通安全教室や、避難訓練、日常の巡回指導での声かけを通じて、安全に生活することの大切さを意識付ける。	B 【達成状況】 教職員の肯定的評価は 100%で、目標指標を 25 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 食育を、教科・領域を含めて実施できるようにする。また、生徒のリスク感覚が向上するよう、具体的な指導や声かけを行う。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 75%以上	① 各学年で行われる体験的な進路学習を通じて、将来の夢や希望を具体化させる。 ② 地区内小学校や自治会でのボランティア活動へ生徒の参加を促す。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 84.4%で、目標指標を 9 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 地域人材を活用したキャリア教育の取組等を行い、将来の生き方に具体的な見通しをもてるようにする。また、地域ボランティア活動を充実させる。
	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 70%以上	① 給食等 A L T との交流の場面を意図的に設定するとともに、積極的に会話するよう生徒に働きかける。 ② 生徒会活動で、国際交流に関する内容を積極的に取り上げる。	A 【達成状況】 生徒の肯定的評価は 86.1%で、目標指標を 16 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 授業以外、給食等の時間を利用して、A L T と生徒との交流の機会を増やせるよう工夫する。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 70%以上	① 国語の授業で百人一首に関する学習を行う。 ② 道徳科の授業で、郷土の良さについて改めて考える機会をもつ。	A 【達成状況】 生徒の肯定的評価は 76.7%で、目標指標を 6 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間や食育の指導計画の中に、宇都宮の良さを学べる内容を位置付ける。また、学校・学年だより等に宇都宮の良さを発信する内容を意図的に設ける。
	A 10 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	① デジタル教科書等の I C T 機器を授業で積極的に利用する。 ② 総合の調べ学習等、図書室を授業で積極的に利用する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的評価は 93.3%で、目標指標を 18 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 図書室の資料を積極的に利用するなど、図書資料を学習に活用する工夫を続ける。

目 指 す	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 総合や道徳科の学習の中で、高齢者に対するいたわりや敬愛の念が育つよう意図的に指導する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.5%で、目標指標を 13 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 高齢者に対する配慮や、接し方について、道徳の授業等で学ぶ機会をもつ。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 70%以上	① 生徒会活動で、リサイクルに関する内容を積極的に取り入れる。 ② 地域協議会の協力を得て、学校の緑化やグリーンカーテン等の環境保全活動を積極的に展開する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 69.2%で、目標指標より若干下回っている。また、教職員の肯定的評価は市の指標よりも 16 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 各教科・領域、学校行事等で、横断的に学習ができるよう教育課程を工夫する。
	B1 生徒は、学校行事や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 生徒主体の学校行事や生徒会活動が実施できるよう、各担当者が意図的、計画的に生徒を指導する。 ② 活動実施後の振り返りを十分にを行い、次回の課題を明らかにして改善につなげるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的評価は 100%で、目標指標を 15 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 生徒会活動や学校行事を行う際、P D C A サイクルにより内容を改善・充実させる。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 校内支援委員会、教育相談係会、生徒指導係会の情報を全職員で共有し、生徒の支援に生かせるようにする。 ② かがやきルーム担当と教科担任が連携を密にし、効果的な支援が行えるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的評価は 96.7%で、目標指標を 11 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 支援が必要な生徒について全教職員で共通理解を図り、個に応じたきめ細やかな支援ができるようにする。また、スクールカウンセラーを活用し、保護者の支援にも力を入れる。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① いじめゼロ集会やスマホ等の適正な使い方など、いじめ根絶を図る指導を継続的にを行い、その取組を学校だよりや生徒指導だよりなどにより情報提供する。 ② 教育相談を計画的に行うほか、アンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 96.2%で、目標指標を 11 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 生徒間のトラブルの早期発見、早期解決を徹底し、いじめに対して全教職員で取り組む。また、いじめ防止の取組を学校・学年だよりやホームページ等で保護者に周知し、家庭との協力関係を強化する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 一人一人を大切にしたい、温かい雰囲気学級の学級経営に努める。 ② 教育相談係会での検討を基に、生徒一人一人の状況にあった支援に努める。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.2%で、目標指標を 13 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 適応支援教室や教育相談係会の運用の成果と課題を検証し、一人一人を大切にしたいより良い支援の方法について検討する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 生徒の困り感に寄り添い、適切な支援を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的評価は 96.7%で、目標指標を 11 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 外部人材を活用するなどして保護者や生徒とコミュニケーションをとり、適切な支援が行えるようにする。

学 校 の 姿	A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会活動の活性化を図り、生徒の自主的・継続的な活動を推進する。 ② 各種学校行事において、生徒主体の取組となるよう、計画立案の段階で十分検討する。 ○③ あいさつ運動を計画・実施し、学校全体の活性化を図る。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 90.8%で、目標指標を若干上回っている。また、市の指標より 3 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ○みんなが元気にあいさつし合える環境づくりを進める。 また、生徒会活動や学校行事を立案する際に、今年度の反省を生かし、より充実した計画となるよう努める。
	A 18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① 「一人 1 授業」等の研修を通して授業力向上に努め、個に応じた指導、分かる授業、楽しい授業を展開する。 ② 部活動休養日や、週末の学習課題を工夫することにより家庭学習を習慣化させ、基礎学力の定着に努める。 ③ 定期テスト前の学習計画立案の際、適切な助言を行うことにより、生徒の学習意欲を高める。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.9%で、目標指標を 7 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 授業公開や「一人 1 授業」等の取組を充実させ、教職員一人一人の授業力を向上させる。また、時間割を工夫し、習熟度別学習や T・T を効果的に運用する。地域協議会を中心とした「放課後学習室」も運用も進めていく。
	A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員全員が教育目標や、学校経営の重点を意識し、目標をもって業務にあたる。 ② スクールカウンセラー等の専門スタッフとの積極的な連携を推進する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的評価は 80.0%で、目標指標に達している。しかし、市の平均を 11 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 カリキュラムマネジメントを働かせ、様々なスタッフが授業等の教育活動に関われるようにする。
	A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 70%以上	① 文書やデータの管理方法を改善し、前年度の資料を基に業務を行えるようにする。 ② 行事内容の精選や、会議の効率化を教職員からの提案を基に推進する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的評価は 48.3%で、目標指標を 22 ポイント下回っている。また、前年度比 39 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 会議内容の見直し等、業務の効率化を進めるとともに、内容の精選を進める。また、保護者や地域と連携した働き方改革を推進する。
	A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① <u>地域学校園研修や各部会・教科部会等を定期的に実施</u>し、計画的に推進する。 ② 「小中一貫教育だより」や「学校だより」等による情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	A 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 89.1%で、目標指標を 1 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ○今年度から実施された新しい授業コンセプトでの研究を推進するとともに、事業内容の見直しを行い、実効性のある小中一貫教育・地域学校園の取組を行う。
	A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 「魅力ある学校づくり地域協議会」を活性化させることにより、保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を推進する。 ② 地域情報を収集し、生徒に周知することにより、「地域の一員」という意識を高めさせる。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 93.3%で、目標指標を 3 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間や、生徒会活動の計画の中に、地域施設との交流を位置付けられるよう検討する。また、教職員や保護者からのニーズを吸い上げ、地域と連携・協力した学校教育を推進する。

本校の特色・課題等	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① P T A 活動の活性化を図る。 ② ホームページの内容の充実を図り、地域・家庭への情報発信力を高め、開かれた学校づくりを推進する。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 93.3%で、目標指標を 3 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ホームページを充実させ、学校の情報を発信していく。また、授業公開や授業参観の機会を増やし、開かれた学校づくりの一層の推進を図る。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 月例安全点検や、校内巡回を通じて危険箇所の早期発見、対処に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的評価は 100%で、目標指標を 10 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 安全点検等での指摘箇所を学校業務員、機動班と連携して速やかに改善させる。老朽化した施設の修繕を市と連携して進める。
	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	① 学習に必要な図書資料を、全教職員の提案を基に、計画的に購入する。 ② 校内の I C T 機器が効率よく使えるよう、利用法を工夫する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的評価は 93.3%で、目標指標を 18 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 教育活動に利用可能な図書や視聴覚資料、I C T 機器をリスト化して、活用を推進する。
	B2 学校は、緑化活動や清掃など、環境整備に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① 自問清掃への取組等、清掃活動を充実させる。 ② 教室の整理・整頓等、落ち着いた学習環境が維持できるよう、生徒に積極的に指導する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 86.4%で、目標指標を 1 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 自問清掃の継続した取組を生徒に浸透させるとともに、全職員で共通理解のもと指導する。また、清掃チェックリストを作成し、基本的な清掃の仕方を生徒に確認させる。
	B3 学校は読書活動の推進に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 朝の読書を継続し、読書の習慣を全校生徒に定着させる。 ② 図書委員会の活動を活性化し、学校図書館の積極的利用を推進する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 95.5%で、目標指標を 5 ポイント上回っている。また、前年度比 13 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 朝の読書や、図書委員会によるブックトークやビブリオバトル等、読書啓発活動を継続する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・宇都宮市の共通評価となる 25 の質問（A 1～A 25）において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た 75 項目のうち、肯定的回答の割合が 80%を上回った項目は 61 項目（全体の約 81.3%）であり、本校の教育活動が全体として肯定的に受けとめられていると考えられる。一方で、市の平均を上回っている項目は 50 項目（全体の約 66.7%）であることから、改善すべき点も多いことが分かった。
- ・「自己評価」である教職員評価では、学校独自の 3 項目を含めた全 28 項目中、21 項目（全体の約 75.0%）で肯定的評価が 90%以上の値を示している。この結果は、7 月に本校独自で行った教職員への中間評価の値（18 項目）から 3 項目増となり、PDCA サイクルを実践することで改善してきた成果だと考える。
- ・本校ならではの教育活動にあたる「感動的な学校行事による、生徒の主体性や社会貢献への意欲の育成」「環境教育の推進」「読書活動の充実」の 3 つの独自の質問（B 1～B 3）においては、調査した各対象者から回答を得た 10 項目のうち 8 項目の肯定的回答が 90%を上回っており、特色ある学校づくりの推進が成果を上げていると考える。

- ・ A 3「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 A 4「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」では、教職員・保護者・地域住民・生徒の全てにおいて、肯定的回答が90%を超えており、しっかりと基本的な生活習慣が定着している結果となった。
- ・ A 9「生徒は、宇都宮の良さを知っている」 A 12「生徒は、持続可能な社会について関心をもっている」は、他の項目と比較すると、肯定的回答の割合が低い。この2項目については、取組が不十分であったと考えられ、次年度は該当する教育計画の改善と充実に努める。
- ・ A 20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」においては、教職員の肯定的回答が中間で67.9%、最終が48.3%とかなり低い値であった。リフレッシュデーの設定や、超過勤務職員に対する面談を行うなど、改善に向けて取り組んできたが、まだまだ意識が低い結果であった。「働き方改革」の周知・徹底と併せて、行事前の練習時間や部活動の指導に係る負担の軽減も進めていく。

7 学校関係者評価

- ・ 中学校も新型コロナ対策をとりつつ、様々な行事や日常生活を充実させる努力をされていると感じた。今年度実施したことで、次年度の方向性が見えたものも多いと思う。さらなる発展を期待している。
- ・ 「いじめ」や「不登校」など、市平均より肯定的評価が上回っているので安心だが、これからも100%に近づけるよう努力をしていってほしい。
- ・ 河中だより（学校だより）では、毎号、行事や学習の様子を文や写真で情報提供してくれることはうれしい。学校での生徒の活動が把握できる。
- ・ コロナ禍にもかかわらず、工夫しながら行事をしていることに感心した。個人競技、団体競技など全員参加で実施しているのがいい。
- ・ 給食を試食させていただいたときには「ちょっと少ないのでは」と思ったが、「食育だより」でいろいろ工夫している事がよく分かり安心した。給食週間の取組や、セレクト給食の実施等、是非、続けていただけるとよいと思う。
- ・ A 1「生徒は、進んで学習に取り組んでいる。」について、生徒は確かな学力を身に付けたいとの願いをもっている。真剣に学習に立ち向かう姿が印象的。
- ・ A 7「生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」について、指標は上回っているが、否定的評価16%の生徒が気になった。今後も様々な取組をとおして、生徒たちの社会貢献への意識がさらに高まるとよいと思う。
⇒各学年で行われる体験的な進路学習を通じて、将来の夢や希望を具体化させる。また、地区内小学校や自治会でのボランティア活動への生徒の参加を促す。
- ・ A 12「生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」について、生徒は理解できているのか。リサイクルなど、これからますます必要になってくることなので、少しずつ評価を上げる努力をしてほしい。また、学校だけでなく、地域や家庭での活動も重要であることを認識させていきたい。
⇒技・理・社において取り扱う領域があるので、積極的に活動の場を設ける。また、総合的な学習の時間（国際）を活用し、SDGsをもとに、生徒がもつ課題意識についての探究を行う。
- ・ A 20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」について、民間企業と違い、出勤時間は守られても、終了時間はルーズな面があるのでは。定時で帰りづらいという声も聞く。教材、資料、試験問題等を共有させれば効率化につながると思う。
⇒業務負担の軽減に向けて、行事内容の精選や会議の効率化、また、専門的な資格をもっている方や、部活動の外部指導者の活用を積極的に進める。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 本校の教育活動や学校運営については、これまで同様、全体として肯定的に評価されている。特に、A 6「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」では、コロナ禍にあって、自他の健康（命）について意識が高まり、4者の肯定的評価平均が97.7%と極めて高くなっている。他に、B 1「生徒は、学校行事や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。」の評価も高く、また、A 13、14、16では、生徒一人一人のニーズに応じて全教職員が丁寧に対応している結果となっている。引き続き、家庭や地域との連携を進め、「開かれた学校づくり」を一層推進し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
- ・ 一方で、A 20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」は、肯定的評価がかなり低くなっており、本校における喫緊の課題となっている。『働き方改革』について再確認し、教職員の意識を変えていくとともに、行事の精選や部活動指導等の業務の効率化に向けた取組を、より強く進めていくようにする。
- ・ 高度な情報化社会や国際化、AIの活用等、めまぐるしく社会が変化していく中、学校からの情報を積極的に発信し、そして、家庭や地域等多くの方々からの協力を得ながら、『チーム学校』を推進していきたい。